

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人 実寿穂会		
事業所名	グループホーム ポート野芥		
所在地	福岡市早良区野芥八丁目7番1号		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果確定日	平成28年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者の好きなことが出来、やりがいを持つことで楽しい時間を一緒に見つけていく中で、お思いを知り、楽しく出来ること・楽しくやりたいことを一緒に過ごす中、毎日に目的があり生き生きと楽しむ事で、笑顔にあふれ充実した毎日を過ごす。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポート野芥」は平屋の2ユニットで、都市高速道路出入口や地下鉄の駅にも近い住宅街に位置する、開設から間もなく1年半になる新しい事業所で、まだ新築の樹の匂いがする。長崎の社会福祉法人が母体だが、グループ内では福岡市内にて特養や別のグループホームなどの運営を行っている。まだ空室があり、また職員は試行錯誤を繰り返してはいるが、マニュアルに基づく日常業務に加え、本人の思いを大切にケア、研修によるスキルアップ、行事への参加を通してのつながりの強化などを意識して、きめ細かなサービスに積極的に取り組んでいる。本年に入ってから入居者家族の強い意向もあって看取りも行うなど家族からの信頼も厚い。今後も、地域ケアを支える事業所をして期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項目	自己評価(業)	自己評価(煌)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念として、私たちは、好きなことが出来・やりがいを持つことで楽しい時間を一緒に見つけていくお手伝いをします。私たちは、思いを知り、楽しく出来ること・楽しくやりたいことを一緒に過ごしていきます。私たちは、毎日に目的があり、活き活きと楽しむ事で、笑顔のあふれた充実した毎日と一緒に歩みます。を、掲げている。三つの言葉から、各ユニットでスタッフ一人一人で作った理念を掲げ日々のケアに取り入れている。	施設理念として、私たちは、好きなことが出来・やりがいを持つことで楽しい時間を一緒に見つけていくお手伝いをします。私たちは、思いを知り、楽しく出来ること・楽しくやりたいことを一緒に過ごしていきます。私たちは、毎日に目的があり、活き活きと楽しむ事で、笑顔のあふれた充実した毎日と一緒に歩みます。を、掲げている。三つの言葉から、各ユニットでスタッフ一人一人で作った理念を掲げ日々のケアに取り入れている。	法人理念とは別に事業所独自の理念があり、立ち上げ時に職員が思いを出し合って共通するものを文章にして理念を作成した。玄関先にも掲示しており、理念にあげられるキーワードを意識して、話し合いやケアへの取り組みにつなげている。「本人の思いを大事にする」というところから最期をここで迎えたいという希望をくみ取り、看取りの支援も行った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。事業所の入り口にベンチを設置している。入居者並びに近隣の方とのふれあいの場となっている。地域行事に参加し地域との交流を図っている。地域行事・子供会行事に参加、地域の一員として交流を図っている。	自治会に参加している。事業所の入り口にベンチを設置している。入居者並びに近隣の方とのふれあいの場となっている。地域行事に参加し地域との交流を図っている。子供会との交流、子供110番に参加、地域の一員として交流を図っている。	野芥文化祭に出展も行い、地域行事へのお誘いを受けることも多い。事業所主催の夏祭りを毎年行い、地域の方もお招きしている。そこをきっかけに子供たちとの触れ合いも増えてきた。新たに道具も借りて餅つきの実施も企画している。地域からの依頼と、市の要請もあり、野芥公民館で認知症サポーター養成講座の講義を行い今後も継続していく予定である。	地域ボランティアの活用や、幼稚園、小中学生との交流の発展など、さらに地域との関わりが盛んになることが期待される。自治会内の老人会や敬老会などとの取り組みも共同でできることを目指しており実現に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険サービス並びに、認知症ケアについての相談があり対応している。キャラバンメイトの資格を持った職員がいるので、地域に向け認知症ケアの情報を発信している。	介護保険サービス並びに、認知症ケアについての相談があり対応している。キャラバンメイトの資格を持った職員がいるので、地域に向け認知症ケアの情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、入居者様・入居者家族ならびに自治会長、公民館館長、保育園園長、居宅事業所、デイサービスセンター、薬局、市役所・包括支援センターに参加を呼びかけている。様々な意見を取り込み、サービスの向上に努め、よりよいサービスを目指している。	運営推進会議において、入居者様・入居者家族ならびに自治会長、公民館館長、保育園園長、居宅事業所、デイサービスセンター、薬局、市役所・包括支援センターに参加を呼びかけている。様々な意見を取り込み、サービスの向上に努め、よりよいサービスを目指している。	今年から入居者も増えてきて、家族にも参加して頂けるようになってきた。開催日の検討も行い、事前に可能な日を聞き取ることで家族参加も実現した。地域の方や有識者の参加も多く、事業所の情報共有や報告のほか、地域からの情報ももらったり、それぞれの立場からの意見や質問などもあつたりと、活発な会議がなされている。議事録は閲覧の要望があつた際に対応できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、入居者様・入居者家族ならびに自治会長、公民館館長、居宅事業所、デイサービスセンター、薬局、市役所・包括支援センターに参加を呼びかけている。様々な意見を取り込み、サービスの向上に努め、よりよいサービスを目指している。	運営推進会議において、入居者様・入居者家族ならびに自治会長、公民館館長、保育園園長、居宅事業所、デイサービスセンター、薬局、市役所・包括支援センターに参加を呼びかけている。様々な意見を取り込み、サービスの向上に努め、よりよいサービスを目指している。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加していて、市職員が参加することもある。市の出前講座を積極的に活用しており、入居者や職員に対して講座を年に何度か開いてもらっている。入居には至らなかったが包括から入居紹介を頂くこともあった。事故報告や介護申請などの際には直接訪問している。何かあつた時の相談事もしやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、法人の勉強会に参加し全体意識の統一をはかっている。入職プログラムや会議においては入居者個別での肉体的ならびに精神的虐待を共通理解できるようにしている。玄関は、10時半から16時までは扉を開放し、いつでも入居者は外に出られる環境を整えている。	身体拘束について、法人の勉強会に参加し全体意識の統一をはかっている。入職プログラムや会議においては入居者個別での肉体的ならびに精神的虐待を共通理解できるようにしている。玄関は、10時半から16時までは扉を開放し、いつでも入居者は外に出られる環境を整えている。	日中は玄関施錠せず、センサーなども使っていない。外出も自由にしてもらい、その際は見守りや付き添いで対応し、身体拘束の事例もなかった。外出機会を増やすことで入居者の離脱のリスク軽減を図っており、近隣の方にも認知してもらえようように日頃もアプローチを行っている。内外の研修参加があり、スタッフも持ち回りで参加、伝達をしている。ドラッグロックに関しても薬局と連携して減薬を図っている。	万が一の離脱に備えて、近隣との連携や、徘徊ネットワーク、SOS登録なども含めた対応方法の検討がなされていくことが望まれる。

H28自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価(零)	自己評価(煌)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、マニュアルの作成ならびに入職プログラムや勉強会を行っている。法人の勉強会として弁護士など研修に参加し理解を深めている。	虐待については、マニュアルの作成ならびに入職プログラムや勉強会を行っている。法人の勉強会として弁護士などの研修に参加し理解を深めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の講座などを活用し成年後見人制度の内容や意図、勉強会を行い、理解を深めている。	行政の講座などを活用し成年後見人制度の内容や意図について、勉強会を行い、理解を深めている。	過去に利用を進めたことがあったが、現在までに制度利用をされた方はいなかった。市の出前講座を活用して、入居者、職員に対しての勉強会を行い、基本的な制度理解を進めている。対応が必要な時は主に管理者やケアマネが担当し、外部の専門家と連携して行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書ならびに契約書の読み合わせを行っている。いつでも、不明な点や疑問について説明が出来るように常日頃から心がけている。管理者のみで契約をするのではなく計画作成担当者と一緒にを行うことで、内容を理解し説明できるようにしている。	契約時には、重要事項説明書ならびに契約書の読み合わせを行っている。いつでも、不明な点や疑問について説明が出来るように常日頃から心がけている。管理者のみで契約をするのではなく計画作成担当者と一緒にを行うことで、内容を理解し説明できるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族からの意見や要望を、職員会議ならびにカンファレンスなどで話し合いを行っている。入居者家族会の設置を考えている。	入居者や家族からの意見や要望を、職員会議ならびにカンファレンスなどで話し合いを行っている。入居者家族会の設置を考えている。	家族の面会も多く、要望などは口頭で聞くことが多い。法人が中心になって満足度調査をしており、当事業所独自のものも近々予定されている。苦情などがあつた際は法人で集約してHPなどで公開する仕組みがある。毎月「ポート野芥だより」を発行しており、担当者からの個別のお手紙でも状況報告や写真報告を行っている。	家族会設置を検討しており、準備段階である。今後入居者が増えるに伴って、実現されることが期待される。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の業務の流れは、職員たちで話し合いをし作成している。支障があれば、自分たちで解決し、よりよい職場環境を目指している。入居者だけのカンファレンスだけでなく、職員についてもカンファレンスで話し合いを行い。皆でどうしていくかを話し合っている。	職員の業務の流れは、職員たちで話し合いをし作成している。支障があれば、自分たちで解決し、よりよい職場環境を目指している。ありがとうカードを実施し、日々の業務の中でも互いが認め合える環境作りを行っている。	職員の提案を自由に上げてもらい、毎月の会議以外でも日頃から話しやすい雰囲気を作っている。入居者と一緒にする居室の整理や、中庭での園芸のお世話など積極的な取り組みにつながり、会話の刺激にもなっている。毎日短時間のカンファレンスもあり、迅速な情報共有や気づきの共有を行う。ちょっとした協力の感謝の気持ちを伝える「ありがとうカード」があり、コミュニケーションに役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握するように努めている。給与水準や労働時間も含め、一人ひとりが目標をもって、日々のやりがいの持てる環境づくりに努めている。	代表者は、管理者や職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握するように努めている。給与水準や労働時間も含め、一人ひとりが目標をもって、日々のやりがいの持てる環境づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用面接には、本人の学びが重要だと思ふ。対人援助職として、一人ひとりの気づきが集まりよりよい認知症ケアの為に、性別や年齢等で採用の判断はしていない。	職員採用面接には、本人の学びが重要だと思ふ。対人援助職として、一人ひとりの気づきが集まりよりよい認知症ケアの為に、性別や年齢等で採用の判断はしていない。	直接は声をあげづらい職員も、年配の職員と気兼ねなく話し合っ、円滑な共有が進められるようにしている。構成も男女の職員で20～60歳代までと幅広い。外国籍の職員雇用もあり、門戸を広く開いている。法人研修のほか、外部研修にも勤務として参加するなど、積極的に学習機会を持てるように働きかけている。	

H28自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価(零)	自己評価(煌)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政の出前講座などの活用や、弁護士などの研修に参加し、人権の尊重ならびに尊厳について学ぶ機会を設けている。	行政の出前講座などの活用や、弁護士などの研修に参加し、人権の尊重ならびに尊厳について学ぶ機会を設けている。	外国人雇用もあり、異文化交流の理解も進めている。法人の全体研修の中で弁護士に講師になってもらって研修することもあり、毎年出前講座の中で人権に関する講師派遣をしてもらい人権学習を定期的に進めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時にオリエンテーションプログラムを組み認知症ケアについて目標設定をし、理解をすることから始めている。日々の気づきを感じられるように、朝礼で目標を必ず立ててもらい、終礼では良かったことを言ってもらっている。	入職時にオリエンテーションプログラムを組み認知症ケアについて目標設定をし、理解をすることから始めている。日々の気づきを感じられるように、朝礼で目標を必ず立ててもらい、終礼では良かったことを言ってもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議などを包括支援センターと行い、地域の認知症の人について、生活の質の向上について提案をしている。運営推進会議においても近隣の介護保険事業所に参加頂きネットワーク作りを行っている。	地域ケア会議などを包括支援センターと行い、地域の認知症の人について、生活の質の向上について提案をしている。運営推進会議においても近隣の介護保険事業所に参加頂きネットワーク作りを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメント時に、職員との写真を撮り入居の際にお渡ししている。入居の際が一番不安だと考え、会ったことがある人がいるという安心感を作っている。ケアの統一では、本人の思いを根拠に入居前・三日目・一週間・一ヶ月のカンファレンスを実施している。	入居前アセスメント時に、職員との写真を撮り入居の際にお渡ししている。入居の際が一番不安だと考え、会ったことがある人がいるという安心感を作っている。ケアの統一では、本人の思いを根拠に入居前・三日目・一週間・一ヶ月のカンファレンスを実施している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に家族の困っていること不安を聞くことから、具体的なケアの方向性を伝えるようにしている。入居に際しての要望についても、寄り添えるようにし、よりよい関係作りの構築を目指している。	入居申し込みの際に家族の困っていること不安を聞くことから、具体的なケアの方向性を伝えるようにしている。入居に際しての要望についても、寄り添えるようにし、よりよい関係作りの構築を目指している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを根拠に、家族の意向を考慮しながら、入居前・三日目・一週間・一ヶ月カンファレンスを行い、幸せな未来の為に、今必要なサービスを話し合いサービス計画を作成している。	本人の思いを根拠に、家族の意向を考慮しながら、入居前・三日目・一週間・一ヶ月カンファレンスを行い、幸せな未来の為に、今必要なサービスを話し合いサービス計画を作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の幸せのために、何が出来・何をしたいのかを考えサービス計画作成し認知症ケアを行っている。本人の役割作りの中で、幸せを感じていける事が第一と考えている。	本人の幸せのために、何が出来・何をしたいのかを考えサービス計画を作成し認知症ケアを行っている。本人の役割作りの中で、幸せを感じていける事が第一と考えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	請求書に、担当者の手紙・日々の写真と、施設便りを同封している。サービス計画においても家族の支援をお願いしている。	請求書に、日々の写真と、施設便りを同封している。サービス計画においても家族の支援をお願いしている。		

H28自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価(寒)	自己評価(煌)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の玄関扉は10:30～16:00は開放し、外にでれる環境にしている。近所の方から入居者への声かけがあり、社会性が薄れないように支援している。	施設の玄関扉は10:30～16:00は開放し、いつでも出入りできる環境にしている。近所の方から入居者への声かけもあり、社会性が薄れないように支援している。	家族面会のほか、知人や友人の来訪も自由で早朝でも気軽にしてもらっている。文化祭での作品出展を働きかけ、意欲の触発につながった。希望があれば自宅に立ち寄る支援をすることがある。葬儀の参列に職員が付き添ってお連れすることもあった。入居者同士で馴染みの関係になって女子会として外出することもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の役割を奪わない支援をしている。一人一人の出来ること・したいことを楽しんでいる環境を作ること、互いを認め合える場面作りを行っている。	入居者の役割を奪わない支援をしている。一人一人の出来ること・したいことを楽しむことができる環境を作ること、互いを認め合える場面作りを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退去された方はいないが、入居者が安心してケアを受けていく為にも、チームでなくてはならないと考える。だからこそ関係性を大切に、途切れない支援をしていく。	入居者が安心してケアを受けていく為にも、チームでなくてはならないと考える。だからこそ関係性を大切に、途切れない支援をしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人の思い」を根拠にし、日々のケアでも添えるように対応している。本人の思いを、職員が気づけるように、マネジメントしている。	「本人の思い」を根拠にし、日々のケアでも添えるように対応している。本人の思いを、職員が気づけるように、マネジメントしている。	日頃のケアの中での職員の気づきを大事にし、毎日のカンファレンスなどで情報を共有している。家族からの意見も取り入れて、生活歴などをもとに本人の要望の把握につなげる。入居者一人一人に向き合って、個別の思いをくみ取れるような働きかけを常に心がけ、情報は記録と申し送りによってケアマネに伝えプラン作成に活かしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握するために、本人・家族に「出来ること・したいこと」を主体に伺い、生活状態、サービス利用につながった経緯などを尋ねている。入居前カンファレンスでもケアの統一の中で、把握するように努めている。	これまでの生活歴を把握するために、本人・家族に「出来ること・したいこと」を主体に伺い、生活状態、サービス利用につながった経緯などを尋ねている。入居前カンファレンスでもケアの統一の中で、把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当初は対応する中で、本人の思いを探っていく、入居者の「出来るかもしれないこと・したいかもしれないこと」で、役割を通して過ごしていただくなかで、根拠を見つけ対策を立てるケアを考えている。	入居当初は対応する中で、本人の思いを探っていく、入居者の「出来るかもしれないこと・したいかもしれないこと」で、役割を通して過ごしていただくなかで、根拠を見つけ対策を立てるケアを考えている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ること・したいことを根拠に、本人の思いをケアプランに反映させ作成している。なぜそう思っているのか、なぜそうしたいのかを話し合う中で、いろいろな気づきを話し合い、目標達成のために日々のケアに活かし、評価を行っている。	出来ること・したいことを根拠に、本人の思いをケアプランに反映させ作成している。なぜそう思っているのか、なぜそうしたいのかを話し合う中で、いろいろな気づきを話し合い、目標達成のために日々のケアに活かし、評価を行っている。	ユニットごとの計画作成担当者がプランを作成し、随時～3ヶ月での見直しを行っている。担当制にもしており、家族へのお手紙、物品の管理、担当者会議の参加などを担当している。訪問マッサージやデイケアなど外部の関係者から日頃聞いた意見を元にして、プランに反映させることもある。	以前もしていた担当制の幅を広げて、アセスメント、モニタリングやプラン作成などの業務も担えるようにスキルアップに取り組まれることが期待される。

H28自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価(零)	自己評価(煌)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使い、入居者のノーマルを知ることにより、入居者の当たり前に気づき、ケアの実践や介護計画において見直しができるようにしている。	24時間シートを使い、入居者のノーマルを知ることにより、入居者の当たり前に気づき、ケアの実践や介護計画において見直しができるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・家族からの、ニーズに対応できるように、連携施設との情報交換ならびに、運営推進会議において包括支援センターや居宅介護事業者とも相談できるように取り組んでいる。	入居者・家族からの、ニーズに対応できるように、連携施設との情報交換ならびに、運営推進会議において包括支援センターや居宅介護事業者とも相談できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加し、行事ごとの参加ならびに、野芥子供会に行事ごとの参加をお願いなどしており、楽しんでいくことで豊かな暮らしが提供できるように支援を行っている。	自治会に参加し、行事ごとの参加ならびに、近隣保育園に行事ごとの参加をお願いなどしており、楽しんでいくことで豊かな暮らしが提供できるように支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療かかりつけ医による、往診を定期的に行っている。精神科・内科・循環器科・皮膚科の先生と連携を組み、入居者の安心につながるようにしている。	訪問診療かかりつけ医による、往診を定期的に行っている。精神科・内科・循環器科・皮膚科の先生と連携を組み、入居者の安心につながるようにしている。	精神科を中心に他科でも提携をもっており、基本的な診療は事業所内で2週に1回程度の訪問診療が受けられる。元々のかかりつけの継続もできるが、訪問診療を希望される方が多い。通院介助が必要な際は家族と連携し、通院同行を基本とするが、家族がいけない際には職員のみで対応して結果を報告している。薬剤師との連携もあり、直接訪問を受けて投薬指導などもしてもらっている。家族への報告も医師から直接されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきなどを、かかりつけ医の看護師と相談をし、適切な治療ならびに受診ができるように支援している。	日常の気づきなどを、かかりつけ医の看護師と相談をし、適切な治療ならびに受診ができるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期発見・早期治療が出来るように、入居者の「いつもと違う」に気づき、早めの対応を行うようにしている。入院した場合においても、病院関係者に1週間ごとに情報交換をするようにしている。	早期発見・早期治療が出来るように、入居者の「いつもと違う」に気づき、早めの対応を行うようにしている。入院した場合においても、病院関係者と1週間ごとに情報交換をするようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	老いの中で、重度化していくことは当然と考えるからこそ、入居者の幸せを考え事業所としてケアを考えていきたい。ターミナルを今回経験したことで、今後望まれる家族・本人の意向のもと取り組んでいきたい。	老いの中で、重度化していくことは当然と考える。だからこそ、入居者の幸せを考え事業所としてケアを考えていきたい。訪問診療かかりつけ医と連携しながら、事業所としてできることをチーム全員で模索して実践し、ターミナルの同意書を作成し、家族・本人の意向に添って取り組んでいる。	今年になって初めて看取りの希望があり、医師の立会いの下、同意も頂いてプランも立てたうえで看取りを行った。今後も希望があれば出来る限りの対応を行う予定である。今回の件で経験も積んで、ターミナルケアに関しての勉強会も継続していく。提携医も看取り支援しており、夜間や救急での対応も出来る。	

H28自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価(寒)	自己評価(煌)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時ならびに事故について、マニュアル作成している。定期的な訓練については勉強会ならび救命救急講習を学んだ職員より伝達研修などを行う。	急変時ならびに事故について、マニュアル作成している。定期的な訓練については勉強会ならび救命救急講習を学んだ職員より伝達研修などを行う。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、避難訓練などを行っている。災害時には自治会長に相談をし、対応について助言をいただいている。	火災については、近隣の方にも参加していただき避難訓練などを行っている。災害時には自治会長に相談をし、対応について助言をいただいている。	年2回訓練を実施し、うち1回は消防署の立会いの下行う。以前から呼び掛けていたが、今年初めて自治会長など地域からの参加があった。自治会長とも協力の相談をし、公民館での避難や非常時の連絡の許可も頂いている。AEDの設置と、水とコメの備蓄があり3日分を備えている。AED訓練も行い使用実績もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを作成している、入職研修ならびに、勉強会において項目を設けている。入居者の声かけでも、思い込みの返事をするのではなく、本人の思いがわかっていからこそ精神的苦痛を与えないように配慮を行っている。	接遇マニュアルを作成し、入職研修ならびに、勉強会において項目を設けている。入居者の声かけでも、思い込みの返事をするのではなく、本人の思いがわかっていからこそ精神的苦痛を与えないように配慮を行っている。	お便りでの写真利用があるが、契約時に説明書面での同意も頂いている。職員と入居者のそれぞれの立ち位置や関係などを踏まえて、入居者本人がリラックスできるような働きかけを心がけている。接遇に関する研修は今後は全職員に向けて年間計画の中で行う予定である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを知ることで、何を求めているのかを探っていく。その場限りの対応をするのではなく対策をたて認知症ケアを行っている。	本人の思いを知ることで、何を求めているのかを探っていく。その場限りの対応をするのではなく対策をたて認知症ケアを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の流れに入居者を合わせるのではなく、入居者、一人ひとりのペースにあったケアが行えるように、本人の思いを優先できようとしている。ケアプランの中でも「本人の思い」をニーズとしてとらえている。	職員の流れに入居者を合わせるのではなく、入居者、一人ひとりのペースにあったケアが行えるように、本人の思いを優先できようとしている。ケアプランの中でも「本人の思い」をニーズとしてとらえている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が希望される理髪店を家族の協力で応えている。起床時の整容にも配慮している。	入居者が希望される理髪店を家族の協力で応えている。起床時の整容にも配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなどの役割を、入居者一人ひとりに持ってもらっている。役割を奪わないように、入居者一人ひとりに合わせ声かけを行い、みんなでチームとなるよう支援している。どうやったら食べられるかを考え、食べる楽しさを奪わないようにしていく。	盛り付けや片付けなどの役割を、入居者一人ひとりに持ってもらっている。役割を奪わないように、入居者一人ひとりに合わせ声かけを行い、みんなでチームとなるよう支援している。	業者による調理済み食材の配食があり、ご飯のみ事業所で準備する。入居時に嗜好調査も行い、プランに反映させることもある。出来る方は食器洗いや配下膳することもある。ユニットによっては週1回程度調理レクも行っている。自分で出来ることを大事にし、エプロンもせずゆっくりと自分のペースで食事をしてもらう。食べたいものは家族と一緒に外食時にしてもらうことが多い。	将来的に、事業所内での調理も行い、職員も一緒に食事できるような取り組みも検討中である。実現に向かって引き続き話し合いがなされていくことに期待したい。

H28自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価(零)	自己評価(煌)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、管理栄養士による献立を業者から納入している。味が均等ならびに塩分濃度にも配慮するために、湯煎やムース食での食事提供を行っている。水分については、目標を設定し、こまめな摂取を心がけている。	食事については、味が均等ならびに塩分濃度にも配慮するために、管理栄養士による献立を業者から納入している。水分については、目標を設定し、どうやったら飲みやすいかを1人ひとりに合わせた器、形状を検討し摂取していただけるよう心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による歯の健康診断を行い、本人の状態にあったアドバイスを頂いている。歯磨きについては本人が出来る所までやっていたり、磨き残し等は声掛けや手伝いをしている。	歯科医による歯の健康診断を行い、本人の状態にあったアドバイスを頂いている。歯磨きについては本人が出来る所までやっていたり、磨き残し等は声掛けや手伝いをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者を定時誘導するのではなく、24時間シートを使用し、本人の排泄パターンがわかることにより、失敗ならびに失禁が少なくなるように支援している。	入居者を定時誘導するのではなく、24時間シートを使用し、本人の排泄パターンがわかることにより、失敗ならびに失禁が少なくなるように支援している。	一人で行ける方には極力自分でトイレに行ってもらい、遠目での見守りをするように配慮している。おむつ利用だった方も機能向上により、おむつやパットの利用軽減につながったこともある。誘導のタイミングは排泄チェックシートもつかって共有する。失敗のあった際も周囲に気づかれぬよう配慮した支援を行う。広めのトイレが1ユニット内に3か所あり、居室からも近くに配置され、移動・介助も含めて利用しやすい。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士指導による、食材にて食事提供を行いバランスが取れた内容となっている。日頃から入居者の食事量・水分摂取量を把握し、便秘予防につとめている。	管理栄養士指導による、食材にて食事提供を行いバランスが取れた内容となっている。日頃から入居者の食事量・水分摂取量を把握し、便秘予防につとめている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間を14時から16時と設定している。毎日入浴をされる方も居られれば、医師の指示を受け入浴の回数を設定している方も居る。	入浴の時間を14時から16時と設定している。毎日入浴をされる方も居られれば、医師の指示を受け入浴の回数を設定している方も居る。	三方向介助が出来る位置に浴槽が設置され、両脇にベンチもあり移乗もしやすい。手すりも浴槽を囲う形で取り付けられ安心される。少なくとも週2回以上としており、毎日でも入浴ができる。夫婦での入浴も可能である。本人本位のタイミングや都合で入浴することができる。お湯も毎回張り替えて清潔にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを活用し、入居者のサイクルに沿った生活サイクルの組み立てを行っている。入居者のいつもの様子を、職員は把握出来ているので、表情や仕草などで、声かけを行い、休息できるようにしている。	24時間シートを活用し、入居者のサイクルに沿った生活サイクルの組み立てを行っている。入居者のいつもの様子を、職員は把握出来ているので、表情や仕草などで、声かけを行い、休息できるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局にて、薬の一包化し安全に服薬できるようにしている。他科受診しても処方せんを施設に持ってきてもらい、薬剤師の薬のチェックを行ってもらい、副作用の少ない状態を考えている。服薬提供表をファイリングし、急変時などでも速やかに医師に報告できるようにしている。	提携薬局にて、薬を一包化し安全に服薬できるようにしている。他科受診しても処方せんを施設に持ってきてもらい、薬剤師の薬のチェックを行ってもらい、副作用の少ない状態を考えている。服薬提供表をファイリングし、急変時などでも速やかに医師に報告できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「したいことかもしれない・できることかもしれない」、本人の思いを把握することで、何が目的なのかを考えていく。根拠から、その方のしたいこと・できることにつなげ、日々を生き活きすることで役割を考えている。	「したいことかもしれない・できることかもしれない」、本人の思いを把握することで、何が目的なのかを考えていく。根拠から、その方のしたいこと・できることにつなげ、日々を生き活きすることで役割を考えている。		

H28自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価(零)	自己評価(煌)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日散歩を行っている。全員でいくのではなく、入居者と職員や、夫婦のみ、女子入居者同士と、色々な場面を散歩で行っている。地域からのお誘いで、七夕・夏祭り・グランドゴルフ・運動会など、行事ごとにも参加を行っている。	ほぼ毎日散歩を行っている。全員でいくのではなく、入居者と職員や、夫婦のみ、女子入居者同士と、色々な場面を散歩で行っている。地域からのお誘いで、夏祭り・グランドゴルフ・運動会など、行事ごとにも参加を行っている。	雨の日でも本人の希望があれば、散歩に出かけ近くの公園や、事業所前のベンチで日光浴をすることもある。車に乗って近くで花見や買い物など近隣をドライブすることもある。入居時には周辺環境の案内もして、安心してもらっている。拒否のある方も同じように外出できるよう働きかけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があれば、お金を持って頂けるようにしている。外出の際や、欲しい物があれば買い物に出かけ、入居者に精算が出来るように支援もしている。	入居者の希望があれば、お金を持って頂けるようにしている。外出の際や、欲しい物があれば買い物に出かけ、入居者に精算が出来るように支援もしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居契約の際に電話はいつでもかけられる様に家族と相談をしている。手紙についても自由にやり取りが出来るように支援している。	入居契約の際に電話はいつでもかけられる様に家族と相談をし携帯電話を持たれている方もいる。手紙についても自由にやり取りが出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に、テレビ・ソファを置き、団らんの場所の提供を行っている。入居者の部屋の入り口には、似顔絵を職員が描き掲示をしている。音の混濁がないようにしている。	居間に、テレビ・ソファを置き、団らんの場所の提供を行っている。入居者の部屋の入り口には、似顔絵を職員が描き掲示をしている。音の混濁がないようにしている。	明るいフローリング調の床。ホールは吹き抜けで開放感がある。音の混濁がないように食事の際はテレビを消し、静かなBGMを流すようにしている。家庭的な雰囲気重視して、飾り物や作品などの掲示は目立ち過ぎない程度に控えている。中庭を挟んでユニットが正対称に配置され、窓が多いため採光も良い。ガスファンヒーターと床暖房で冬場でも暖かく、居心地の良い生活ができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に、テレビ・ソファを置き、団らんの場所の提供を行っている。入居者の部屋の入り口には、似顔絵を職員が描き掲示をしている。音の混濁がないようにしている。中庭には、入居者で植えたプランターがあり、気のあった入居者同士で育てている。	居間に、テレビ・ソファを置き、団らんの場所の提供を行っている。入居者の部屋の入り口には、似顔絵を職員が描き掲示をしている。音の混濁がないようにしている。中庭には、入居者で植えたプランターがあり、気のあった入居者同士で育てている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使いたれたものを持ってきていただくようにしている。新しい環境だからこそ、今までの自分の物が周りであることで安心していけるようにしている。	入居者の使いたれたものを持ってきていただくようにしている。新しい環境だからこそ、今までの自分の物が周りであることで安心していけるようにしている。	居室の戸口には名前と別に、職員が書いた似顔絵が描かれ、それぞれの認識で区別できるようにしており、また温かみを醸し出している。8畳ほどの居室は、入口がスライドドアになっていて開口が広い。室内には介護ベッドとクローゼットが備え付けられ、テレビ、音響機器、小物など使い慣れた物の持ち込みができる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「したいことかもしれない・できることかもしれない」、本人の思いを把握することで、何が目的なのかを考えていく根拠から、環境整備を工夫し、その方のしたいこと・できることにつながるように考えている	「したいことかもしれない・できることかもしれない」、本人の思いを把握することで、何が目的なのかを考えていく根拠から、環境整備を工夫し、その方のしたいこと・できることにつながるように考えている		